

墓標

墓標

のまゝ生を
死んで死んで、生と死とすへは
君をさと振りぬきむすす
がけいひなう。
無い事い下喜きゆ
アツイ
脚本

君をさはがた玉つていよ
寒い日
すしくうまんすゆう

たぐく小さくちつて片隅へあしらひ

りうかを小さく草履

卷之二

育英小学校

卷之二

卷之九

卷之三

スナーフ

在在平和都市建設株式会社

マ杯テヌスコート場の事

萬葉抄 挑てえを直ヒセメト肩

生まゝの黒い野草野
雨が降れば泥沼とちよびて

もう練へもういちい
市堂ハラツクは宜から

おやじ
おやじ

立つて

午もろく、足もろく、眼もろく
何とせ、かよことじゆく

大正
廿二年

2

いくうせりて
おなでやくも

お母さん

四

育英小学校

居たる事、何不今議定す
了らむ。即ち
にせんか、公とては、か
しきみつ、かくもへりが
跡碑を立てて、之を守り

クローハウスにて
外國の兵隊と
あんなのハとがハ

二三事あると、

兵隊あると、

君たゞうお接の甚直内様は

泥れぬ御さん

憎めゆゆゆゆゆゆゆゆ

あらうあらう一、拘墨斎の内

車がままでまわせたやうな

車はまわせたやうな

お婆てやんは
平和まつりちくかゆくもんかと
いふとああうことを待す
おひざまは
こつそりとああう跡古跡としまつ

外れて母親の乱房でしやふりういて
生子御子年孫も
もうちつ。(あり日)

とほうとてこいさとく
雨の道路とくに
居たゞ、支たゞも

とほうとてこいさとく
居たゞ、支たゞも